

[3] 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

【原文】

奉公人のはてとおぼしきが宿を借り、四方山よもやまのことを語りつくしけり。亭主ほめて、「いかさま、ただの人と見えさふらはず。もはや休みたまへ。夜着よぎを参らせんや。」と言ふ。「いや、いかほどの野陣のぢん・山陣やまぢんに、少々寒きことをば知らず。無用①。」と言うて、着のまま寝ねけるが、夜ふくるにしたがひ、ひたもの寒し。「ときに、亭主、亭主。この鼠ねずみには足を洗はせたか。」と問ふ。「いや、さやう②のことはなし。」と答ふ。「それならば、むしろを二、二枚着せられよ。鼠が着たものを踏まば③、むさからうずに。」

【現代語訳】

大名に仕えたことのある武士と思われる者が宿を借り、いろいろな話をしつくした。亭主がほめて、「ほんとうに、ふつうの人とは見えません。もうおやすみなさいませ。(A)。」と言う。「いや、かずかずの野・山のいくさにも、すこしも寒さを感じたことはない。無用だ。」と言って、着たままで寝たが、夜がふけるにつれて、寒くて寒くてたまらない。「ところで、亭主、亭主。この家の鼠には足をあらわさせてあるか。」と問う。「いや、そのようなことはない。」と答える。「それならば、むしろを二、二枚かけてください。鼠がわたしの着たものを(B)、不潔だろうから。」

問一 〓 線部A「さふらはず」、イ「さやう」について、それぞれ現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

問二 〓 線部A「夜着を参らせんや」、B「踏まば」の現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号を塗りつぶしなさい。

A 「夜着を参らせんや」

- ① 寝具をさし上げましょうか。
- ② 寝具は使わないでしようね。
- ③ 寝具はお持ちでしょうね。
- ④ 寝具をお持ちするにおよびませんか。

B 「踏まば」

- ① 踏んだので
- ② 踏んだら
- ③ 踏まなければ
- ④ 踏まないと

問三 — 線部①「無用」というのは、何が無用なのですか。何にあたるものを原文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問四 — 線部②「足を洗はせたか」とたずねたのは、どのような気持ちからですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号を塗りつぶしなさい。

- ① ただなんとなくいばってみたい。
- ② 寒くてやりきれないのでむしろを借りたい。
- ③ なかなか寝つかれないので話の相手がほしい。
- ④ ほかの着物もないので、着ている着物がよごれると困る。
- ⑤ 着ている着物は主人からいただいたもので、よごされると困る。

問五 — 線部③「着せられよ」とは、だれに着せるのですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号を塗りつぶしなさい。

- ① この宿の亭主
- ② 自分自身のこと
- ③ この宿の使用人
- ④ 宿にいる鼠
- ⑤ この近くにいる盗賊

問六 この話のおもしろさはどのような点にありますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号を塗りつぶしなさい。

- ① 鼠をこわがる主人公のおくびよう。
- ② 亭主の心にもないおせっかい。
- ③ 主人公のねぼけているようす。
- ④ 主人公の負けおしみ。
- ⑤ 主人公の異常なまでのきれい好き。

問七 この文章は江戸時代に成立した『醒睡笑』というはなしほん噺本はなしほんの一部分である。この作品と同じ時代に成立した作品を次の中から一つ選び、番号を塗りつぶしなさい。

- ① 枕草子
- ② 万葉集
- ③ 今昔物語集
- ④ 奥の細道
- ⑤ 徒然草